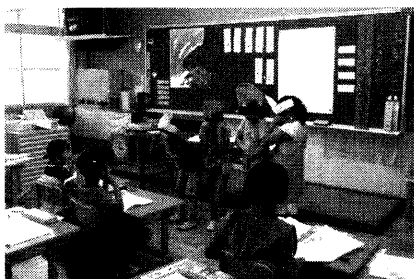


## 香南地域の拠点校

### 香南市立野市小学校

校長 田中紀子 学級数 二五 生徒数 六四九名



1年国語の授業 大きなかぶ



おもいやり音楽会 う～みさんと

平成18年度から野市小学校は、「みて ふれて 学びを広げる のいちの子」を研究主題とし、自然や人や社会など周りの環境を対象とする体験活動を重視した学習活動を展開してきた。これにより、自分の願いを実現するために、周りの友達と協力しながら主体的に行動できる児童が育っている。平成21年度には教育活動におけるPDCAサイクルの確立をめざし、協働型組織体制づくりに取り組んだ。

平成22年度からは、国語科を重点教科として「生きてはたらくことばの力の育成」を掲

げ研究を推進してきた。その結果、国語科でのことばの力が定着し、他教科において汎用されるようになった。日常的には、考える場を確保し、児童に「なぜ？」を問い、理由や根拠などを述べさせ、思考力・判断力・表現力等を育む重要な場を設定し取り組んできた。授業においては、子ども同士の関わりの中で、交流や話し合いの中で、自分の思いを表現する喜びを感じたり、友達のよさに気づく中で、自己を高める姿に出会えた。

国語科における組織的教科経営を実践するための校内研修や、若手教員の指導、中堅教員の育成におけるベテラン教員の実践知の伝達等、OJTの推進による組織体制づくりが進み、研究成果が確実なものとなった。

その結果として、平成25年度全国・学力状況調査では全教科が全国平均を上回り、標準学力調査においてもほとんどの学年で全国平均を上回るなど結果を伴った取り組みが定着した。

また、研究指定校として得た結果を、市内はもとより、県内一円の小中学校にも発信し、高知県における先進校・教員研修の拠点校として重要な役割を果たしている。

指定研究以外でも、環境教育・学校行事・読み聞かせ等において、学校支援ボランティア・ゲストティチャーとして、年間延べ約2000人の保護者や地域、関係機関と連携した取り組みが継続され、「地域の子どもを地域で守り育てる」気運が醸成され、地域の教育力の向上に結び付いている。

(香南市教育委員会推薦)

# 仁淀川町待望の中学校として

## 仁淀川町立池川中学校

校長 前田圭一 学級数 五 生徒数 六四名

池川中学校は、文武両道を目指し、「知 徳 体」の実現をめざし、全教職員が一丸となって、バランスのとれた生徒の育成に取り組んでいる。

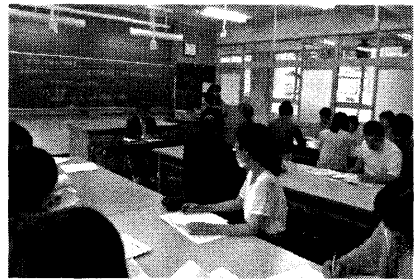
平成25年度4月、吾川中学校・池川中学校との学校再編により、全校生徒64名で新たなスタートとなった。

生徒たちは、明朗快活で、地域にとけこみ、「礼儀正しい」「元気で明るい」といった肯定的な評価をいただいている。

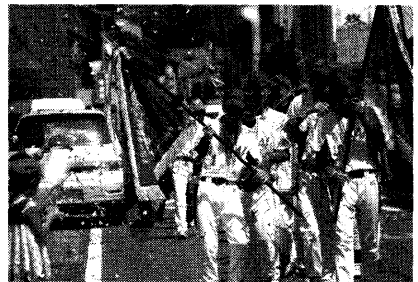
教育目標は、「真理と正義の探求」、そして研究主題には「自らの人生を切り拓き積極的に行動する生徒を育てる」を掲げ、全校上げて取り組みを進めている。特に学習指導面においては、PDCAサイクルの計画的な校内研修を実施し、教育研究に意欲的に向い合っている。

学力向上については、中部教育事務所や仁淀川町教育研究所と連携し、「分かる授業づくり」に向けて、授業で付けるべき力を明確にし、本校の目指す授業の方向性を全教職員で確認し取り組んでいる。

全国学力・学習状況調査結果分析では、全教職員でこの問



関西大学 田尻悟郎先生をお招きして



全国総体ソフトボール優勝パレード

用について協議している。さらに、協議後「明日から」できることをまとめ、授業に反映させている。結果として、生徒に意識の変化が見られ学力が向上した。

本校では全員が5つの部活動のいずれかに所属し、礼節を重んじながら、日々体力・技能の向上に研鑽している。本年度、男子ソフトボール部は、平成25年度、県・四国・全国総体で優勝するという輝かしい成績を上げた。優勝パレードには地域の多くの方が参加し、過疎化に悩む地域の「希望の星」となっている。

また本校では、地域の貴重な伝統芸能である「池川神楽」「玄蕃太鼓」を伝承するため全校上げて取り組んでいる。その結果、生徒は地域に対する愛情と誇りを育むことができ、地域の一員として大きな力となっている。

(仁淀川町教育委員会推薦)

題を解く  
中で、現  
在求めら  
れている  
課題を共  
有し、各  
教科での  
対応や授  
業での活

# 地域社会の中心校として

## 宿毛市立東中学校

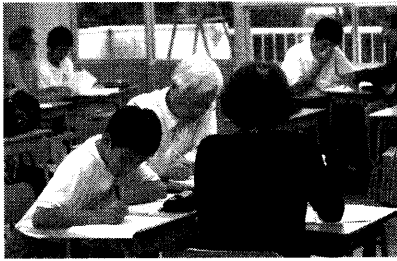
校長 則雅司 学級数 四 生徒数 九一名

本校は、学力向上に向けた取り組みを強力に推進し、地域や保護者から信頼を得ている中学校である。具体的には、学力向上の体制を再構築し、授業改善に積極的に取り組むとともに開かれた学校づくりを推進、地域社会や外部の人材を活用し、「進路フォーラム」や「子どもの学習応援隊」を組織し展開することで学力向上に成果をあげている。

校内研修の充実の方策としては、授業改善を組織的・計画的に行っている。研究主題を「生徒同士のかかわりを大事にした授業・学級活動を通して」と定め、西部教育事務所と連携し、授業の質的向上を図っている。また、全教員が公開授業を基



保健体育の授業



子どもの学習応援隊

本とし、K J法等を用い、ワークシヨップ形式で協議を深め、授業改善につなげている。教科では、数学の学力

定着状況に課題があることを共通課題とし、短期間での検証を繰り返し、改善を図っている。具体策としては、単元テストの結果を掲示し、全員で課題を共有し、補充指導にも生かしている。また、日々の帰りの会に「基礎トレ」タイムを設定し、基礎的な問題の反復を行うとともに、毎週水曜日の校内研修のある日の放課後は「チャレンジタイム」の時間とし、補充問題や発展学習の時間を設定し取り組んできた。

また、授業と家庭学習のサイクル化を確実にするため、コネル大学式ノートの活用や、授業と家庭学習を関連つけた確認テストを実施している。

また、学習意欲の喚起を促すため、キャリア教育の充実に取り組んでいる。平成24年度から高校生（本校卒業生）をパネラーとして「進路フォーラム」を実施し、夢や希望の実現のため「自分が行きたい高校」を目指す取り組みを始めたところ、学習意欲の喚起につながり、学ぶ姿勢が強く感じられるようになった。

さらに、地域社会が応援団である「子どもの学習応援隊」の活動が、学校の活性化に大きく貢献している。放課後や夏・冬休みに生徒とボランティアの方がペアを組み、数学を中心に学びあっている。生徒にとっては、教えられる、また教える側にもなることで、学校の教科指導とは一味違った学びの場となり、社会性が養われる場ともなっている。

学級通信を地域社会へ毎週発行、また地区別夜間懇談会の開催等、地域ぐるみの教育活動を展開し、生徒の成長に地域を上げて取り組んでいる。

（宿毛市教育委員会推薦）